

平成30年(2018年)12月のモスクワ及びサンクトペテルブルクにおける
雅楽公演及びワークショップ(説明書2(1))の実施に関する参考情報

一例として、出演者が「東京楽所」となる場合には、主に以下のような条件を確保することが期待されます。ただし、これらは今後の調整により、変更があり得ます。

1 公演関係

- (1) 照明及び舞台設置については別添資料のとおり。その他、解説等のためマイクが必要。
- (2) 舞台費（本公演2回・ワークショップ2回）
 - 楽師出演料 3, 540, 000円
 - 装束・楽器損料 1, 400, 000円
 - 舞台スタッフ・装束師・通訳・司会進行 1, 490, 000円
 - この他、現地プロデューサー謝金及び現地手配通訳（全体の日程を通じて雇いあげる通訳2名をモスクワとサンクトペテルブルクのそれぞれで雇いあげるとともに、公演準備、ワークショップ・メディアの当日対応用に通訳補助を3名）を要する。
 - 特殊照明・音響等は必要なく、照明は通常の地明かりのフェドイン・フェドアウトだけで音響機材は使用しない（ワークショップも同様）。
- (3) 演目（一例）
 - 1 管弦演奏
「平調の音取」, 「越天楽」, 「陪臚」
 - 2 舞楽
「萬歳楽」, 「落蹲」

2 ワークショップ関係

- レクチャー・コンサート形式で実施。終演後、打楽器の体験を企画可能。
- 舞いが舞うスペースがあれば、ステージ付きのホールでなく、フラットな会場でも実施可能。楽器紹介、音楽的特性の解説、越天楽、紫響（現代雅楽）、休憩（20分）、舞楽解説、舞楽「蘭陵王」と管方演奏「長慶子」、質疑応答の計約2時間30分を想定。
- 解説・質疑応答のためマイクが必要。

3 ロジスティクス

- 日本からの参加予定人数 計27名（団長・演出1名、プロデューサー・司会1名、楽師18名、装束師2名、舞台監督1名、舞台スタッフ2名、ディレクター1名、コーディネーター1名）
※渡航者は全27名であるが、うち3名分は計上不要。

➤ 渡航滞在及び輸送

- ・ 日本国内移動
- ・ 荷物輸送（東京都内⇄成田）トラック借り上げ2日間（往復）
- ・ 人員交通（東京都内⇄成田）24名×往復
- ・ 移動は成田～モスクワ～サンクトペテルブルク～（経由地）～成田で、航空券はエコノミークラスで手配する。
- ・ 携行品：25個 総重量667kg（携行品リスト別添のとおり）
- ・ 現地での移動は、人員移動の大型バス1台に加え、荷物移動用車両を手配することも可。
- ・ 現地滞在費（宿泊費（朝食込み）＋食費＋日当）
24名 × 7泊 （モスクワ19,300円, サンクト12,900円）
※上記の規定額が支給されれば、各メンバーはその枠内で宿泊費、食費を支払うので、19,300円を超える宿泊費や別途の食費を計上する必要はない。
- ・ 円建てで計上されている諸経費については、銀行振り込みにより、「東京楽所」関連事業の主催団体である「創造する伝統実行委員会」口座に円建てで一括送金する。

➤ 広報

- ・ モスクワでは本公演とワークショップで、サンクトペテルブルクでは本公演のみチケット販売を想定しており、12月末の繁忙期に当たるところ、広範にイベントを周知させるだけではなく、会場となる劇場とも協力してインターネット販売が可能となるよう積極的な広報を行う。

（了）